

奈良大生制作「百人一首かるた」紹介冊子



A 5判の冊子「奈良大生の作ったかるた～感じる百人一首～」を紹介する岩田千治さん(左)と三宅晶子さん

和歌の世界 絵で表現

2023年度の「古典文学概論Ⅱ(後期半年)」の授業の一環。今年3月末まで

同学部教授として講義を担当した三宅晶子・横浜国大名誉教授(70)が、学生

たちに気軽に歌と向き合ってほしいと、

百人一首を取り上げた。かるた作りの合

言葉は「光琳(こうりん)に挑戦しよう」。

「燕子花(かきうばた) 図屏風」などで

知られる江戸時代の画家、尾形光琳(1

658~1716年)のグループが作っ

た美しい「光琳かるた」を目標にした。

学生は気に入った首を選び、これまでの解説以外に、学生自線で現代と関連

した。いい経験をした。いい経験を

した。いい経験をした。いい経験を